

一般質問

山崎正春議員

スポーツ振興策と日本文理高校の選手の表彰について

質問 市民が各種スポーツ大会で、上位入賞した場合の『特別表彰』の規定はないのかを問う。

答弁 特に優れた成績を挙げられた者に対する表彰規定はありませんが、体育協会の『優秀競技者賞』があります。

再質問 他団体の規定であって市独自の規定がなければ制定すべきと思うがどうかを問う。

答弁 今後検討する。

質問 日本文理高校は、甲子園での活躍で全国民に『夢と感動と勇気』を与え、新潟県では夢の夢であった『準優勝』という輝かしい成績を挙げた。

その選手の中に阿賀野市出身の選手が2名もおり、しかも今回の『準優勝』に大きく貢献された事は、全市民がその目で確認されたところである。

市はどのようにして、その功績を称えるのかを問う。

答弁 この度の夏の甲子園において準優勝に輝いた、日本文理高校ナインに心から『おめでとう』と『ありがとう』を贈りたいと思います。

『特別表彰』の規定はありませんが、市の褒賞規則第4条により、感謝状並びに副賞を贈り、その際花束の贈呈、記念撮影、広報のインタビューなどにより、この偉業を広報紙に掲載し市民等に広くお知らせしたい。

副市長の選任はどうなったのか

質問 昨年の8月4日以降副市長の選任案件がないが、県庁職員はダメ、OBもダメでは今後どうするかを問う。

答弁 県庁職員も断られ、OBを選考したが承諾を得られなかった。

議員各位からの推薦をお願いしたが、今現在推薦もありませんので私からの『選任』は、『中断』しており現在のところ進展はありません。

山賀清一議員

上下水道について

質問 環境に優しい目的で幹線管渠の整備に力点を置き普及向上に市全体に事業実施をしているが、段階での問題点はないのかを問う。

答弁 順調に整備、全市を見た場合多少の事業の遅れもあり供用開始での差の状況があり、この5年間の事業費の減額変化が挙げられ、平成18年度から減速落ち込みである。

質問 計画実施した場合住民のニーズに十分応えることが可能か、その結果と効果を問う。

答弁 地域によって整備の遅れがあり、この先10年位の事業予定。今後広域下水道に限らず合併浄化槽等への変更で理解願う。

質問 市民の負担増に不満の声があり、説明責任も十分でない接続等料金体系についても問題等が発生している。今後抜本的見直し検討の余地はあるかを問う。

答弁 負担金及び使用料金については地区毎に差は認める。料金の統一を図り算定方法を検討し条例

改正を12月にお願います。

質問 下水道バイオマスエネルギー利用システムを構築する事業に『PFI方式』への計画拡大事業の考えはどの程度かを問う。

答弁 現在は下水道汚泥利活用製品の経費面もあり全量使用まで至っていない。今後は農林課で担当して『阿賀野市バイオマスタウン構想』資源循環型社会の構築を目的に検討会を立ち上げ汚泥を各種バイオマスの利活用を検討する。

活性化策について

質問 政権が変わり本市は大変疲弊しきつている。市全体には多種多様な事業者が多くある。機会均等に発注を行っているか、公正適正に分配しているか、地元最優先に多少の価格差があっても積極的に流すべきであると思うがどうかを問う。

答弁 地域活性化の為に今回80の事業を第一次計画として、県国に申請した。今後も市内事業者者に機会均等に公正適正に指摘の通り分配するように心がける。

常任委員会・閉会中の事務調査

平成21年8月4日に総務文教常任委員会を開催し、所管事務調査を行いました。

1 地域活性化・経済危機対策臨時交付金及び地域活性化・公共投資臨時交付金の対象事業と選定について
経済危機対策臨時交付金関係の第一次実施により30事業のうち29事業を県及び内閣府に申請しました。安全・安心な学校づくり交付金の学校施設耐震化大規模改修工事の安田中学校、堀越小学校、笹岡小学校については積算が間に合わなかったため、第一次より除いて第二次実施計画に含め秋以降に実施する予定と財政課長より説明がありました。

安心・安全な学校づくり交付金については、国庫補助事業でもあり、また公共投資臨時交付金対象事業でもあります。国庫補助事業については、55%の補助、それ以外の45%に対して本来であれば公共投資臨時交付金対象事業で90%を上限に認められることになっていますが、公共投資臨時交付金の要綱・要領が国から示されないことや国の補正予算に限度があり、慎重に状況を把握し、規模縮小等も含め検討が必要との説明がありました。

選定方法としては、原則として阿賀野市内の業者へ発注が可能なこと、新規事業については単年度で終了し、後年度の費用負担が発生しないこと等です。地域が疲弊している中で目的に沿った使い道を財政課長より各課へ伝えていただきたいと思えます。

2 小学校の整備計画(第2次)について

平成18年2月に市長へ第1次計画を報告した結果、3校が統廃合しました。今回の第2次計画は第1次計画を基本として、市内の小学校全部で児童数の減少が見られるため慎重に協議し、教育委員会に提起したいとのことでした。

第1次では途中で方向転換し、統合しなかった学校もあつたことから第2次では基準となるものを精査し、地域の意向をしっかりと踏まえ、慎重に検討する必要があると思われまふ。

平成21年7月29日に富山県富山市立山田小学校・山田中学校へ先進地視察研修を行いました。

総務文教常任委員会

行政視察研修
この学校は旧校舎を老朽化により改築したもので、行政・学校・地域の代表による構想策定委員会と基本設計検討委員会を発

足させ、地域の図書館も学校内に取り込んだ敷地・施設の有効な活用、教育の連続性、地域との連携を大切にしたい学校として、保護者等からのアンケート結果を基に児童生徒の教育はもろろんのこと生涯学習の拠点・精神の拠り所として基本設計を策定しました。

メインコンセプトとして豊かな自然環境とその中で育まれてきた温かな人間関係を大切にして「ふるさと」のよさを育て、みんなの思いが出詰まった「未来を創造する卵(子ども・夢・絆)」を育てる学校」を基本とし、子どもたち・みんなの夢・将来の未来像を育てる学校を創造することを基本設計のコンセプトとしました。山、みどり、川、ピオトープ、村、地域を「菓」、子どもを守る外壁を「殻」、栄養となる学びの空間を「白身」、中庭を「黄身」と卵をイメージしたものとなっております。また、保護者等からのアンケート結果を基に、学校の位置や小学生から中学生への段階において、子どもたちの意識付けに気を配れる施設にしてほしいなど、意見を大いに取り入れて地域から見守られている学校だと感じました。

地域の方も利用できる図書館は外からの出入りが可能で床に座って本が読めるよう床暖房が完備され、地域の方や児童生徒からも好評のようです。また、先生が教室を移動するのではなく、生徒が教科の教室に移動する方式を取り入れていました。

小学校、中学校が一体となった学校について、小中学校の教員は「9年間を見守る形になるので、子どもたちをよく知ることができ、別々な教育をしながらも連携を図ることができる」とメリットが多いようです。



地域の方々も気軽に利用できる校内の図書館

○閉会中の継続調査事項(12月定例会まで)
(1) 水原中学校改築構想検討委員会の進捗状況について
(2) 水原病院の民営化の進捗状況について